

「R-JPN(アール・ジェイピーエヌ)」のオイル製品と、それを用いたヘアケアメニュー(通称:オイルケア、オイルスパなど)について、現在インターネット上で確認できる情報と、現代の毛髪科学的な視点からの考察を整理してお伝えします。

---

## 1. ネット上で公開されている主な情報と特徴

R-JPN のシステムは、単なるトリートメントではなく「頭皮と髪のデトックスと補修」をセットにした独自の理論に基づいています。

- **ドリーミングオイル(クレンジング):**  
「油は油で落とす」という発想で、シャンプーでは落ちにくい酸化皮脂や、髪に蓄積したシリコン・化学物質を除去するとされています。最大の特徴は「水だけで 100%乳化する」という点です。
  - **リラックスウォッシャー(保湿・洗浄補助):**  
界面活性剤を使わずに、オイルを乳化させて洗い流すための製品。抗炎症作用のある成分(植物エキス)を含み、頭皮環境の改善を謳っています。
  - **「あ」「うん」などの補修剤:**  
独自のステップ(「あ」で内部浸透、「うん」で定着させるなど)により、髪の内部に水分と油分を閉じ込め、スカスカになったエイジング毛を「しっかりさせる」と説明されています。
  - **メニューの展開:**  
「オイルカラー」「オイル矯正」として、薬剤によるダメージを最小限に抑えつつ、オイルの力で髪にツヤと柔軟性を与える施術が、40代～60代向けの「髪質改善」として紹介されています。
- 

## 2. 現代の毛髪科学との「共通点」と「相違点」

R-JPN の理論は、非常に理にかなっている部分がある一方で、一部の表現は科学的な厳密さよりも「イメージの分かりやすさ」を優先している側面があります。

### 【共通点:科学的に妥当な部分】

- **オイルクレンジングの有効性:**  
頭皮の毛穴に詰まった固着脂質(角栓)は、界面活性剤よりもオイル(親油性成分)の方が馴染みやすく、浮かせやすいのは事実です。
- **「水で乳化する」技術:**  
本来、油と水は混ざりませんが、親水性の高いオイルを使用することで、頭皮に負担をかけずに汚れを落とす手法は、皮膚科学に基づいた低刺激なアプローチと言えます。

### 【相違点・注意点:毛髪科学的な視点】

- **「シリコン除去」の捉え方:**  
ネット上では「シリコンが悪」として除去を強調する記述が見られますが、現代の毛髪科学では、シリコンは安全性が高く、摩擦ダメージを防ぐ有効な成分とされています。ただし、過剰に蓄積(ビルドアップ)するとトリートメントの浸透を妨げるため、「リセットする」という意味では合理的です。
- **「髪が健康な状態に回復する」という表現:**

前述の通り、髪は死滅細胞であるため、科学的には「回復(再生)」はしません。R-JPN の製品は、ダメージホールに油分や保湿成分を補填して\*\*「擬似的に健康な状態を再現する」\*\*ものですが、一部の宣伝文句では「治る」かのような誤解を与える表現が見受けられます。

- 「タンパク質を固めて大きくする」仕組み:

「あ(浸透)」と「うん(定着)」のステップについて、成分が内部で化学反応を起こして巨大化し、完全に流出しなくなるという説明は、あくまで\*\*「一時的な留まり」\*\*を強化していると考えるのが妥当です。毎日のシャンプーで少しずつ流出していくため、定期的なケアが必要になります。

---

### 3. 総評:40代~60代女性にとっての価値

毛髪科学との細かな相違はありますが、R-JPN のシステムは、加齢で乾燥し、薬剤に弱くなった世代の髪には非常に相性が良いと言えます。

- **メリット:** 強力な洗浄剤(シャンプー)に頼らず、油分を補いながら洗うため、パサつきやすいエイジング毛に「重すぎないツヤ」と「柔らかさ」が出やすい。
- **デメリット:** 1回の施術で永続的に髪が変わるわけではなく、効果を維持するにはサロンでの継続的なケアや、ホームケア製品の併用が前提となるビジネスモデルである点。

もし、特定の美容室でこのメニューを勧められているのであれば、「自分の今のダメージ(うねり、パサつき)に対して、どの程度の頻度で通う必要があるか」を確認してみるのが良いでしょう。

次は、R-JPN 以外の「最新の髪質改善(酸熱トリートメントなど)」との違いについて、より詳しく比較してみましようか？

---

R-JPN のオイルケアと、現在主流の「酸熱トリートメント」やその他の髪質改善メニューは、アプローチが全く異なります。

2026 年現在の最新トレンドも踏まえ、毛髪科学的な視点からその違いを分かりやすく比較・解説します。

髪質改善メニューの比較表

メニュー名	主なアプローチ	向いている悩み	2026 年のトレンド・位置づけ
R-JPN (オイル系)	油分補給・汚れ除去	乾燥、加齢によるパサつき、頭皮の詰まり	「引き算」と「保湿」の両立。ナチュラル志向。
酸熱トリートメント	疑似結合(架橋)	軽いクセ、エイジング毛、ハリ・コシ不足	「髪の芯を作る」ケア。定着期のピーク。
酸性ストレート	ゆるい還元(微修正)	強いうねり、広がり、ダメージ毛の矯正	「整形級」の髪質改善。縮毛矯正の進化版。
水素・ミネラル系	水分保持・活性酸素除去	髪内部の乾燥、ゴワつき	「抗酸化」と「うるおい」重視。

1. R-JPN vs 酸熱トリートメント: 決定的な違い

最大の違いは、\*\*「髪の構造を一時的に変えるかどうか」\*\*です。

- 酸熱トリートメント(グリオキシル酸など):  
髪の内部に「新しい結合」を一時的に作ります。アイロンの熱を利用して成分を反応させ、髪に芯を通すため、「ハリ・コシ」が非常に出るのが特徴です。
- R-JPN (オイルケア):  
結合を作るのではなく、失われた「油分」を補い、髪の隙間を埋める\*\*「詰め物」のアプローチです。そのため、酸熱に比べて仕上がりが「柔らかく、しっとり」\*\*します。

【毛髪科学的注意点】

酸熱トリートメントは、回数を重ねすぎたり薬剤が強すぎたりすると、逆に髪が硬くなる(過収斂)という科学的なリスクがあります。R-JPN は油分ベースのため、硬くなるリスクは低いですが、補修力という点では酸熱の方が「物理的な強度」を上げやすいです。

2. 2026 年の最新トレンド: 「トステア」と「パーソナライズ」

2026 年現在、美容業界では以下の新しい動きが出ています。

- 「トステア(アミノ酪酸)」の台頭:

酸熱トリートメントの「髪が硬くなる」という欠点を克服した新成分です。熱を与えることで髪を補修しますが、質感が非常に柔らかく、R-JPN の「しなやかさ」と酸熱の「形状維持」の中間のような効果を発揮します。

- **酸性ストレートとの併用:**

40代～60代の強い「うねり」には、トリートメントだけでは限界があります。そこで、アルカリを使わない「酸性ストレート」でベースを整え、その後のメンテナンスとして R-JPN や酸熱を取り入れるのが現在の正解とされています。

---

### 3. あなたに合った選び方の目安

- **R-JPN がおすすめな人:**

- 頭皮の健康も一緒に考えたい(デトックス重視)。
- 髪が硬くなるのが嫌で、とにかく柔らかい質感にしたい。
- ナチュラル・オーガニックなアプローチを好む。

- **酸熱トリートメントがおすすめな人:**

- 髪が細くなり、フワフワ・ペタンとしてしまう。
- 湿気で広がる表面の「アホ毛」をしっかり抑えたい。
- 1回の施術で劇的な「ツヤ」の変化を感じたい。

#### 科学的な相違点のまとめ

R-JPN は\*\*「油分による柔軟化」、酸熱は「酸と熱による構造補強」\*\*です。インターネット上の「髪が蘇る」という言葉は、科学的には「理想的な状態を外部成分でシミュレートしている」と捉えるのが、失敗しない選び方のコツです。

今、ご自身の髪の状態として「パサパサで広がる(油分不足)」と「うねうねしてまとまらない(形状の乱れ)」、どちらのストレスがより強いでしょうか？